

吉野登美子 よしの とうみこ 明治二十八年二月四日新潟縣高田生れ（一九〇五—）。

舊姓島田、八木。大正六年上京、十年聖學院入學、また詩人八木重吉

と知り合ふ。翌年病を獲り退學し八木と結婚。一兒を得るも、昭和一

年いふき、十二年、十五年いふ一兒を結核で亡くす。二十一年歌人吉野

秀雄と再婚したが、四十二年死別。

編著書 『八木重吉—未發表遺稿—』回想『（吉野とみ子名、田中清光共

編、昭和四十六年九月二十日叢書房）、『琴はしずか—八木重吉の

妻として—』（昭和五十一年十月二十六日彌生書房）等。



琴はしずかに

八木重吉の妻として

吉野登美子

琴はしずかに

八木重吉の妻として



八木重吉の妻の名を呼びながら
から昇天してから五十年、その
妻が静かに語る愛は、甘く哀
しく、また常に輝く光に
似て、愛知としてほしい。そ
して次々に追憶しなければな
らないのは、神霊を呼び
喚び、透明な愛のたもとで
舞い立ち、舞い、神入状態。
た舞ひながら、またその時
も空を舞って、愛の舞し忘
れぬ。